

# 3

## ネダノンの特殊な仕様と許容せん断耐力



平成19年の告示改正により、建物全体を許容応力度計算のルートで設計すれば、下記の①、②の仕様が可能となりました。水平構面の許容耐力については、下記の表を、構造計算の方法についてはP.10～13を参考にしてください。

### ① 耐力壁線で囲まれた部分の床面積が40m<sup>2</sup>を超え72m<sup>2</sup>以下の仕様

基本的に、[②](#)の標準的な施工方法に準じるほか、耐力壁線上では釘打ち間隔を100mm以下とする。ただし、(財)日本住宅・木材技術センターの認定による床用現場接着剤(P.20参照)を併用して釘打ちする場合は、間隔150mm以下とすることができる。

### ② 床根太間隔が65cmを超え1m以下の仕様

ネダノンは厚さ28mm以上のものを推奨する。

CN75またはCNZ75で釘打ちする場合、根太は、強度とたわみのほかに釘打ちにより割れない断面とする必要がある。

#### 参考:水平構面の許容せん断耐力

許容せん断耐力(厚さ24mm又は28mm以上のネダノンを用い、根太間隔1m以下の受材を設ける仕様に対する値)

釘種類	釘間隔 (mm)	許容せん断耐力 (kN/m)		
		D-Fir	Hem-Fir	S-P-F, W.Cedar
CN65 または CNZ65	150	4.53	4.40	4.27
	100	6.80	6.60	6.40
CN75 または CNZ75	150	5.80	5.60	5.40
	100	8.70	8.40	8.10

$$\text{算定式: } Q_a = q_a / s$$

ただし、 $Q_a$  : 床の許容せん断耐力 (N/m、短期)、

$q_a$  : 釘1本の許容接合せん断耐力 (N、短期、[5④](#)参照)、

$s$  : ネダノン周辺部の釘間隔 (m)

### ③ 1階床の仕様

1階床については、床組に対して鉛直荷重に対する許容応力度計算を行えば、在来軸組構法と同様の仕様とすることができる。計算方法についてはP.10を、施工方法についてはP.21～23を参照。